The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Injustice Experience Questionnaire, Japanese Version : Cross-Cultural Factor-Structure Comparison and Demographics Associated with Perceived Injustice
Author(s)	山田, 恵子
Citation	大阪大学, 2017, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/61549
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

論　文　内　容　の　要　旨

Synopsis of Thesis

氏　名 Name	山田　恵子
論文題名 Title	Injustice Experience Questionnaire, Japanese Version: Cross-Cultural Factor-Structure Comparison and Demographics Associated with Perceived Injustice (日本語版不公平感尺度：異文化間の因子構造比較を中心とする信頼性及び妥当性の検証、並びに不公平感と関連する患者背景の検討)

論文内容の要旨

〔目　的(Purpose)〕

慢性疼痛患者が自らの状況が理不尽だという考えに固執すると積極的に治療に取り組めず、治癒の妨げになるという問題は医療者が経験的に理解している。その感情をDr. Sullivan氏は「Perceived injustice（不公平感）」と提唱し、計量心理学的に定量する目的でInjustice Experience Questionnaire（IEQ）を開発した。

今後我が国でもPerceived injusticeについての研究を展開する目的で、尺度評価の国際基準に沿って、IEQを日本語翻訳し、71名を対象にその信頼性と妥当性、並びに関連する患者背景を併せて検討した。

〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕

英語版の原作者に翻訳許可をもらい、英語版を日本語に順翻訳、続いて逆翻訳を行い、内容を検討して日本語版翻訳を作成した。そして、外傷をきっかけとした1か月以上の痛みが持続する、20歳以上の患者71名が回答した質問表のデータを対象に分析を行った。まず、構成概念妥当性を調べるため、探索的因子分析を実施し、その結果を確証的因子分析で検証した。次に、基準関連妥当性を調べるため、外的基準として疼痛破局的思考尺度(Pain Catastrophizing Scale: PCS）と簡便痛みの質問票（Brief Pain Inventory: BPI）と日本語版IEQとの相関を検証した。さらに、信頼性を確認するために、内的整合性を検討するためクロンバックα、再検査信頼性を検討した。上記方法で信頼性と妥当性を確認した後、不公平感の高さと関連している患者背景を調べるため、重回帰分析にて患者背景と日本語版IEQ得点との関連を解析した。

探索的因子分析の結果、日本語版IEQでは原著版の2つの下位尺度「Severity/irreparability, Blame/unfairness」に加えて3つ目の下位尺度「Perceived lack of empathy」の存在が示唆された。Perceived lack of empathy、つまり他人から共感されないと感じる要素は、空気を読むといった非言語コミュニケーションが重視される日本文化独特の因子であると考えられる。また、不公平感の高さには、患者背景のうち、痛みが1年以上長期化していることと、痛みの原因が他人のせいであると考えていること、何らかの経済的補償を受けていること、の3つが関連していた。

〔総　括(Conclusion)〕

日本語版不公平感質問票（IEQ-J）の信頼性と妥当性が確認できた。新たに「perceived lack of empathy」という因子が出てきた。英語版とは因子構造が異なる可能性が高いため、各因子別の合計点を比較するような使い方は望ましくない。また、患者の不公平感の高さと、痛みの持続期間1年以上、他者のせいでけがをした、（経済的）補償を受けていることに関連がみられた。

[Format-H07]

論文審査の結果の要旨及び担当者

（申請者氏名）	山田 恵子		
論文審査担当者		（職）	氏　名
	主　査	大阪大学教授	磯 博康
	副　査	大阪大学教授	祖父江 友孝
	副　査	大阪大学教授	池内 孝

論文審査の結果の要旨

慢性疼痛患者が自らの状況が理不尽だという考えに固執すると積極的に治療に取り組めず、治癒の妨げになるという問題は医療者が経験的に理解しており、その感情をDr. Sullivan氏は「Perceived injustice（不公平感）」と提唱し、計量心理学的に定量する目的でInjustice Experience Questionnaire（IEQ）を開発した。申請者らは、尺度評価の国際基準を参考にIEQを日本語翻訳し、71名を対象にその信頼性と妥当性、並びに関連する患者背景を併せて検討した。

日本語版不公平感質問票（IEQ-J）の信頼性と妥当性が確認できた。新たに「perceived lack of empathy」という因子が見出されたことは、日本と欧米との文化的な差異に基づく可能性があり、大変興味深い。また、痛みの持続期間が1年以上、他者のせいでけがをした、（経済的）補償を受けているということと、患者の不公平感の高さに関連がみられた。

本研究は、今後我が国においてもPerceived injusticeについての研究を展開するための礎にしたいという申請者の目的に沿う内容であり、将来の慢性疼痛の研究や臨床の発展に寄与するものである。

以上より、博士（医学）の学位授与に値する。